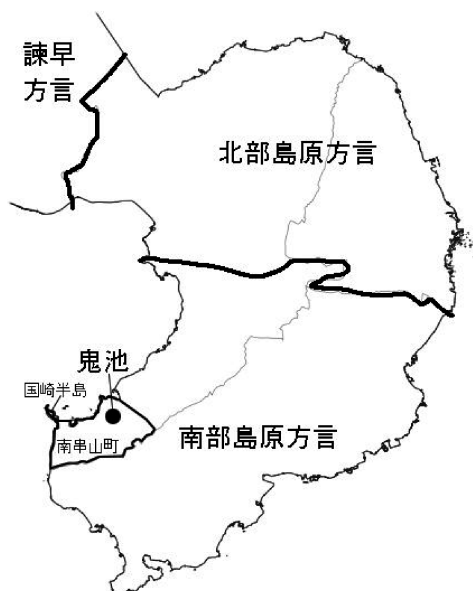


# 長崎県雲仙市南串山町鬼池方言

【長崎県の方言区画】長崎県の方言区画については、前報告書『活用体系(3)』所収「長崎県佐世保市宇久町方言」を参照されたい。下図は長崎県島原半島方言区画図に南串山町と鬼池地区を示したものである。



長崎県島原半島方言区画図

【南串山町鬼池方言について】雲仙市南串山町<sup>みなみくしやま</sup>は島原半島の南西に位置し、長崎県の方言区画では南部島原方言に属する。島原半島では江戸時代、島原・天草一揆で半島南部の住民の殆どが殲滅された後、大規模な移住政策がなされた。当時の幕府により大村藩、熊本藩等九州はもとより全国の諸藩から島原半島への集団移住が命じられたのである（南浦編 2018）。このような歴史的事情もあってか、島原半島内の方言は非常に多様性に富んでいる。昭和初期には島原半島内に6か所の言語の島（隣接する周辺地域の言語との差異が非常に大きい状況）も認識されており、南串山町はそのうちの1つ、国崎半島を擁する（島原第一尋常高等小学校編：1932）。

愛宕（1984）は、国崎半島および隣接集落を「言語島」とし、南串山町内のそれ以外の集落を「周辺域」とした対照研究である。その区分で言えば、本調査の対象地である鬼池地区は「周辺域」に属する。愛宕（1984）は、「言語島」と「周辺域」の対照結果を大きく音声面、語アクセント面、文法面、語彙面の4項目に分けて述べた。そのうち文法面の差異を表1に示す。

表1 愛宕（1984）による「言語島」と「周辺域」の文法面の差異

	言語島	周辺域 (鬼池が属する)	
形容詞・形容動詞の語尾	イ語尾	カ語尾	
敬語助動詞「ス・トラス」	使用しない	使用する	
主格標示助詞	「ガ」を使用	「ノ」または撥音化した「ン」を使用	
準体助詞	「ノ」を使用	「ト」を使用	
方向助詞	「イ」を使用	「ニ」を使用	
サ行五段活用動詞のイ音便形	あり	なし	
文末詞	感動詞系	「マー」	「マー」および「ワ・ワー」は使用しない
	人代名詞系	「ワ・ワー」	
	準体助詞系	「ノ・ノナー」	「ト・トナー」

愛宕（1984）は、鬼池地区が属する「周辺域」は長崎県下全域で一般的な方言形との共通点を多く有し、一方、「言語島」ではそれとは異なる言語現象が多くみられると述べた。本調査における鬼池方言でも、愛宕（1984）が示した「言語島」の特徴はほとんど見られなかった。

【表記について】鬼池方言では母音の脱落などによる音の交替がよく見られる。例えば「ナグル（投げる）」を単独で発音した場合、語末母音が脱落し「ル」は有声子音[l]のみで発音するが、本稿では「ル」と表記した。また、「ナグツジャロー（投げるだろう）」では、「ナグル」に「ジャ」が後続するため、「ナグル」の語末[l]も非常に弱くなり、促音「ッ」に近い発音に聞こえる。このような場合、本稿では「ッ」と表記した。また「コドン（子ども）」を単独で発音した場合、語末「ン」は、有声子音[m]のみで発音するが、後接の音次第で[n]になることもある。本稿ではいずれの場合でも「ン」と表記した。

【調査概要】本稿は、雲仙市南串山町鬼池在住の高年層男性話者2名（1945年・1948年（昭和20年・23年）生まれ）を対象として、2022年～2023年に断続的に行った臨地面接調査にもとづく記述である。

## 長崎県雲仙市南串山町鬼池方言の活用表

《動詞》

		多段型 書く	一段型 見る	二段型 投げる	来る	する
終 止 類	断定 非過去	カク	ミル	ナグル	クル	スル
	断定 過去	カイタ	ミタ	ナゲタ	キタ	シタ
	命令	カケ	ミロ ミレ	ナゲロ ナゲレ	コイ	セロ
	禁止	カクナ	ミンナ	ナグンナ	クンナ	スンナ
	意志	カコ（一）	ミヨ（一） ミユ（一） ミュー ミロ（一）	ナゲヨー ナギユ ナギュー ナゴー	キヨ（一） キュー クー	シュー スー シユ（一）
	推量	カクジャロー カクバイニャー カクゴタル カクダロダイ カクジャロダイ カコダイ	ミツジャロー ミルバイニャー ミルゴタル ミルダロダイ ミツジャロダイ ミューダイ	ナグツジャロー ナグルバイニャー ナグルゴタル ナグルダロダイ ナグツジャロダイ ナギューダイ	クツジャロー クルバイニャー クルゴタル クツダロダイ クツジャロダイ クルダイ キューダイ	スツジャロー スルバイニャー スツゴタル スツダロダイ スツジャロダイ スツダイ シューダイ
接 続 類	連体 非過去	カク	ミル	ナグル	クル	スル
	連体 過去	カイタ	ミタ	ナゲタ	キタ	シタ
	中止	カITE	ミテ	ナゲテ	キテ	シテ
	仮定	カケバ	ミレバ	ナゲレバ	クレバ	スレバ セレバ
派 生 類	否定	カカン	ミン ミラン	ナゲン	コン	セン
	丁寧	（該当形 欠）	（該当形 欠）	（該当形 欠）	（該当形 欠）	（該当形 欠）
	使役	カカセル	ミサセル	ナグサス ナゲサス	コラセル	サスル
	受身	カカレル	ミラレル	ナゲラレル	（該当形 欠）	サレル サルル
	可能	カカレル カケレル カキエル カカユル カキユル カキキル	ミラルル ミエル ミユル ミーキル	ナゲラルル ナゲレル ナゲエル ナゲユル ナゲキル	キーエル キーユル キーキル	サレル サルル シキル
	尊敬	カカス	ミラス	ナゲラス	コラス	サス
	継続	カイトル カキヨル	ミトル ミヨル	ナゲトル ナゲヨル	キトル キヨル	シトル シヨル
	希望	カキタカ カクゴタル	ミタカ ミルゴタル	ナゲタカ ナグ（ル）ゴタル	キタカ キューゴタル	シタカ スルゴタル
	のだ	カクト	ミルト	ナグルト	クルト クット	スルト スット

多段型動詞の基幹音便形

語幹末 子音	語例	活用形例 (過去形)	作り方
k	書く kak·u	カイ-タ	kをiにする。「行く」ik·uはkをQ(促音)にし「イツ-タ」。
g	嗅ぐ kag·u	キヤー-ダ	gをiにする。-タが-ダになる。
g	漕ぐ kog·u	コイ-ダ	gをiにする。-タが-ダになる。
s	出す das·u	ダシ-タ	音便形をとらず、基幹イ段形を用いる。
t/c	立つ tac·u	タツ-タ	t/cをQ(促音)にする。
n	死ぬ sin·u	シン-ダ	nをN(撥音)にする。-タが-ダになる。
b	飛ぶ tob·u	トン-ダ	bをN(撥音)にする。-タが-ダになる。
m	飲む nom·u	ノン-ダ	mをN(撥音)にする。-タが-ダになる。
r	切る kir·u	キツ-タ	rをQ(促音)にする。
w/ø	買う ka(w)·u	コー-タ	wを子音なしにする。wの前の母音がaの場合はoに変え、長音にする。ka(w)u→koota

《形容詞・形容名詞述語・名詞述語》

		赤い	静か(だ)	学生(だ)
終 止 類	断定非過去	アカカ/アッカ	シズカカ/シズカ	ガクセー ガクセージャ/ガクセーヤ
	断定過去	アカカッタ	シズカカッタ	ガクセージャッタ/ガクセーヤ ッタ
	推量	アカカロー アカカゴタル アカカバイニャー	シズカジャロー シズカゴタル シズカカバイニャー	ガクセージャロー
接 続 類	連体非過去	アカカ/アッカ	シズカカ	《ガクセーノ》
	連体過去	アカカッタ/アッカッタ	シズカカッタ	ガクセージャッタ
	中止	アカカッテ/アッカッテ	シズカカッテ	ガクセーデ
	仮定	アカカリャ/アッカレバ	シズカナリャ※	ガクセーナリャ
派 生 類	否定	アコナカ	シズカジャナカ※	ガクセージャ/ガクセーヤ ナ カ
	なる	アコナル	シズカニ/シズカンナル ※	ガクセーニ/ガクセーニ ナル
	副詞	アコー	シズカニ	(該当形 欠)
	丁寧	△アカカデス	△シズカカデス	△ガクセーデス
	のだ	アカカト/アッカト	△シズカカト	(該当形 欠)

形容名詞述語文は、基本的に形容詞と同じ形式をとるが、※印の部分は名詞述語文と同じ形式をとる。

1. 動詞の活用の特徴

(1) 活用型と語類の対応

規則的な活用型として、多段型と一段型と二段型がある。不規則活用には「する」「来る」がある。

多段型の基幹にはア・イ・ウ・エ・オ段の5段および音便形がある。「書く」を例にとると、カク(kak·u)、カカン(kak·a-n)、カク(kak·u)、カケ(kak·e)、カコー(kak·o-R)、カイト(kai-te)となる。

一段型動詞の基幹はイ段である。「見る」を例にとると、ミル(mi-ru)、ミタ(mi-ta)、ミテ(mi-te)となる。

二段型動詞の基幹はウ段とエ段である。「ぬる(寝る)」と「なぐる(投げる)」を例にとると、ヌル(n-u-ru)、ネ-タ(n-e-ta)、ネ-テ(n-e-te)、ナグ-ル(nag-u-ru)、ナゲ-タ(nag-e-ta)、ナゲ-テ(nag-e-te)となる。

「ぬる(寝る)」は、禁止形で「ニューナ」、意志形で「ニューダイ」のように、「ニュー」という形が観察される。また「まざる(混ぜる)」でも、禁止形で「マジュンナ」、推量形で「マジョダイ」「マジュダイ」のように、「マジュ」または「マジョ」という形が観察される。これらについては未詳である。

不規則活用「する」の基幹はサ・シ・ス・セの4段にわたる。例えばサ-レル(s-a-reru)、シ-テ(s-i-te)、ス-ル(s-u-ru)、セ-ロ(s-e-ro)となる。「来る」の基幹はキ・ク・コの3段にわたる。例えばキ-テ(k-i-te)、ク-ル(k-u-ru)、コ-イ(k-o-i)となる。

発話末には終助詞、または準体助詞の終助詞的用法としての「ト」などがあるのが普通である。

## (2) 各活用形の特徴

### 〈断定非過去形〉

断定非過去形は連体非過去形と同形である。多段型はウ段形、一段型と二段型は「基幹+ル」、「来る」は「クル」、「する」は「スル」となる。

- ・イマカラ テガンバ カクバイ。(今から手紙を書くよ。)
- ・オレワ マイニチ テレビバ ミルバイ。(私は毎日テレビを見るよ。)
- ・モーハヨ ハナコン コケ クル。(もうすぐ花子がここに来る。)

「死ぬ」は「シヌ」に加え「シン」という形もある。

### 〈断定過去形〉

断定過去形は連体過去形と同形である。多段型は基幹音便形に、一段型と二段型は基幹に、「来る」「する」はイ段形に「タ」を後接する。

- ・キンギョン シンドバイ。(金魚が死んだよ。)
- ・テガンバ ダシタ。(手紙を出した。)

「書いた」は「カイタ」に加え「キヤータ」もある。「嗅いだ」は「カイダ」に加え「キヤダ/キヤ

ダ」という形もある。

### 〈命令形〉

多段型はエ段形、一段型と二段型は「基幹+レ」または「基幹+ロ」、「来る」は「コイ」、「する」は「セロ」となる。

- ・ハヨー テガンバ カケ。(早く手紙を書け。)
- ・カネワ ギンコーカラ {カリロ/カレ}。(金は銀行から借りろ。)
- ・マイニチ ニュースバ {ミロ/ミレ}。(毎日ニュースを見ろ。)
- ・ソコカラ ボールバ {ナゲロ/ナゲレ}。(そこからボールを投げろ。)
- ・ハヨ シゴトバ セロ。(早く仕事をしろ。)

### 〈禁止形〉

多段型では断定非過去形に「ナ」を付す。多段型r語幹動詞、一段型、二段型、「来る」、「する」では終止形語末が撥音化した「ン」に「ナ」が後接する。

- ・ヨソワシカ ジバ カクナ。(汚い字を書くな。)
- ・ノットナラ ノムナ。ノムトナラ ノンナ。(乗るのなら飲むな。飲むのなら乗るな。)
- ・シンナヨ。(死ぬなよ。)
- ・アブナカケン イシバ ナグンナ。(危ないから石を投げるな。)
- ・アシタワ コケ クンナ。(明日はここへ来るな。)

### 〈意志形〉

多段型では基幹オ段形が意志形に使われる。末尾の母音が長音化する場合もある。

一段型では語幹に「ヨ」または「ユ」が接続する。r語幹化(ラ行五段化)する語では基幹オ段形の「ロ」が付く。

二段型ではエ段形に「ヨ」が接続するもの、イ段形に「ユ」が接続するものがある。後者はイ段拗音化することがある。

「来る」「する」では、基幹イ段形の拗音形の長音化「キュー」「シュー」、さらにそれらが変化した「クー」「スー」で意志を示す。ほかに、「来る」はイ段形に「ヨ」が付く「キヨ」もある。

どの動詞の意志形でも、多くの場合「デ」「ダイ」「カイニャー」などの終助詞が接続する。

- ・テガンバ {カコー/カコ}ダイ。(手紙を書

こう。)

- ・テレビバ {ミユデ/ミヨダイ/ミロデ}。  
(テレビを見よう。)
- ・アソコマデ イシバ {ナゲヨー/ナゴー/ナグ} ダイ。(あそこまで石を投げよう。)
- ・アソコマデ イシバ {ナギユーダイ/ナギユデ}。(あそこまで石を投げよう。)
- ・コドンガ ネリヤ オイモ ニユーダイ。(子どもが寝たら、自分も寝よう。)
- ・マタ コケ {キユー/クー/キヨ} ダイ。  
(またここに来よう。)

「する」ではイ段形に「ユ」を後接する形があるが、「ヨ」の後接は不自然とされた。

- ・イッショニ シゴトバ {スーダイ/シユーダイ/シユーダイ/シユカイニャー}。(一緒に仕事をしよう。)

#### 〈推量形〉

断定非過去形、断定過去形、否定形、継続形に「バイニャー(バイナー)」「ジャロー」「ゴタル」が接続する。また、「ジャロ」と「ダロ」に「ダイ」が後接する「ジャロダイ」「ダロダイ」が接続する形もある。

- ・タローナラ ソッカラ ボールバ {ナグルバイナー/ナグルダロダイ}。(太郎なら、そこからボールを投げるだろう。)
- ・タローワ イマカラ シゴトバ スツジャロダイ。(太郎は今から仕事をするだろう。)
- ・ハナコン モースグ コケ クツジャロー/クルゴタル}。(花子がもうすぐここに来るだろう。)

また、意志形に「ダイ」が接続する形も推量を表す。前述の〈意志形〉の項でも述べたように、同形で意志の意味にもなり、いずれかの判断は文脈にゆだねられる。

- ・タローガ テガンバ カコダイ。(太郎が手紙を書くだろう。)
- ・タローナラ ソッカラ ボールバ {ナギユ二ダイ}。(太郎なら、そこからボールを投げるだろう。)
- ・タローワ バスデ {クーダイ/キユーダイ}。(太郎はバスで来るだろう。)
- ・ジューニジニャ ミンナ キューケー {ス二ダイ/シユーダイ}。(12時には、みんな休

憩するだろう。)

#### 〈連体非過去形〉

断定非過去形と同形である。

- ・フデデ テガンバ カク ヒトモ オル。(筆で手紙を書く人もいる。)
- ・イマカラ シゴトバ スル ヒトモ オル。  
(今から仕事をする人もいる。)
- ・イシバ ナグットキヤー コガン モツタイ。(石を投げるときは、こんなふうに握るんだ。)

#### 〈連体過去形〉

断定過去形と同形である。

- ・コンホンバ カイタ ヒトニ オータ。(この本を書いた人に会った。)
- ・テレビバ ミタ ヒトカラ レンラクン アッタバイ。(テレビを見た人から連絡があったよ。)
- ・ハナコン キタ ヒバ オシエロ。(花子が来た日を教えろ。)

#### 〈中止形〉

中止形は「テ」「デ」が使われる。

- ・ハナコガ ブンバ カイテ タローガ エバカイタ。(花子が文を書いて、太郎が絵を描いた。)
- ・カッタッタ キンギョガ シンデ カナシユナッタ。(飼っていた金魚が死んで、悲しくなった。)
- ・ハヨ シゴトバ シテ ソイカラ バンメシバ クータ。(まず仕事をして、それから夕食を食べた。)
- ・ハナコン キテ ソイカラ タローン キタ。  
(花子が来て、それから太郎が来た。)

#### 〈仮定形〉

仮定形は「バ」を付す。基幹末母音がア段拗音化することもある。「する」は「スレバ」と「セレバ」の両方がある。

- ・イマカラ テガンバ {カケバ/カキヤ} マニアウ。(今から手紙を書けば、間に合う。)
- ・コン バングンバ {ミレバ/ミリヤ} カンガエン カワルカモシレン。(この番組を見れば、考えが変わるかもしれない。)
- ・キョー コン シゴトバ {スリヤ/セレバ}

アシタワ ヤスミタイ。(今日この仕事をすれば、明日は休みだ。)

- ・ハナコガ {クレバ/クリヤ} ミンナ ヨロコッパイナ。(花子が来れば、みんな喜ぶだろう。)

#### 〈否定形〉

多段型はア段形、一段型は基幹、二段型はエ段形、「来る」は「コ」、「する」は「セ」に、「ン」が付される。

- ・テガンバ カカン。(手紙を書かない。)
- ・オナゴワモチバ ナゲン。(女性は餅を投げない。)
- ・ハナコワ コケ コン。(花子はここに来ない。)
- ・キョーワ シゴトバ セン。(今日は仕事をしない。)

なお、一部の一段型および二段型の否定形でr語幹化が見られる。

- ・オイワ キノー テレビバ イッチョン {ミンヤッタ/ミランジャッタ}。(私は昨日テレビを全然見なかった。)
- ・ゴジニャ ダイモ {オキン/オキラン}。(5時には誰も起きない。)
- ・イチジカンモ ダッコシトルトニ マダ {ネン/ネラン}。(一時間も抱っこしているのにまだ寝ない。)

#### 〈丁寧形〉

共通語の「マス」に該当する形式は用いられず、終助詞「ナイ」で丁寧さを表現する。「ナイ」の前には「ダ」「バ」などの終助詞が必要だが、詳細は不明である。

- ・オイガ テガミバ カコダナイ。(私が手紙を書きます。)
- ・ボールバ ナグルバナイ。(ボールを投げます。)

#### 〈使役形〉

多段型はア段に「セル」、一段型は基幹に「サセル」または「サス」を付す。また、「する」は「サスル」と「サス」、「来る」は「コラセル」と「コラス」という2つの形式が併存している。

- ・キンギョバ シナセタ。(金魚を死なせた。)
- ・ハナコニ ニューズバ ミサセル。(花子にニ

ュースを見させる。)

- ・コドモニ {マゼサス/マゼサセル}。(子どもに混ぜさせる。)
- ・タローニ ヒトリデ シゴトバ サストナ。(太郎に一人で仕事をさせるのだ。)
- ・ハナコバ コケ {コラス/コラセルツト}。(花子をここに来させるの。)

#### 〈受身形〉

多段型ではア段形に「レル」、一段型では基幹に、二段型ではエ段形に「ラレル」を付す。ただし、多段型では「ルル」、一段型と二段型では「ラルル」を付すこともある。「する」は「サレル」と「サルル」の2形式がある。なお、「来る」の受身は言えないようである。

- ・イエン ヘーニ ヨソワシカ エバ カカルツパイ。(家の塀に汚い絵を描かれるよ。)
- ・カワッタ ナマエヤケン オイノ シランモンニモ ナマエバ {オボエラレル/オボエラルル}。(変わった名前だから、自分が知らない人にも名前を覚えられる。)
- ・ヨゴレモンワ ワケトルトニ カッチェニ {マゼラレル/マゼラルル}。(汚れものは分けているのに、勝手に混ぜられる。)
- ・タローニ ヒドカ コトバ {サレル/サルツト}。(太郎にひどいことを {される/されるの}。)

#### 〈可能形〉

可能形は大きく3つに分類できる。基幹に「レル」「ルル」「ラルル」を後接するもの、基幹に「エル」「ユル」を後接するもの、基幹に「キル」を後接するものである。状況可能、能力可能に対する明確な使い分けはみられず、上記3分類の可能形は、概ねいずれの用法にも使用されるようであるが、本調査においては話者によって違和感があるとされる場合も若干みられた。

多段型では、表2に示すように、後接の接辞により基幹が異なる。「レル」「ルル」はア段形のみ、「エル」「キル」はイ段形のみに後接し、「ユル」はア段形とイ段形の両方に後接する。

表2 多段型における可能形

多段型	基幹	後続の接辞				
書く	カカ	レル	ルル		ユル	
	カキ			エル	ユル	キル

可能形は「レル」「エル」が後接すると一段型、「ルル」「ユル」が後接すると二段型になる。「キル」が後接すると、多段型となる。

- ・コンコワ マダ コマンカバツテン ムズカシカ カンジバ カキユル。(この子はまだ小さいけれども、難しい漢字が書ける。)
- ・コンコワ マダ コマカケン ムズカシカ カンジバ カッキラントパイナ。 (この子はまだ小さいから、難しい漢字が書けないんだろう。)

一段型では基幹に、二段型では基幹エ段形に「レル」「ラルル」「エル」「ユル」「キル」が後接する。

- ・ハナコワ コマンカバツテン シツカリシトルケン ヒトツデ エーガバ ミーキットパイ。(花子は小さいがしっかりしているから、一人で映画を見られるんだ。)
- ・ウンドージョーナラ ホンキデ ポールバ ナゲユル。(運動場なら、本気でボールを投げることができる。)

「来る」の可能形には、「キーエル」「キ(一)ユル」「キーキル」が使われる。可能肯定形「コレル」「コラルル」は使用しにくい、その否定形「コレン」「コラレン」は自然に使われる。

- ・エキカラ チカカケン アルイテ キーキル。(駅から近いので歩いて来られる。)
- ・タローワ クルバツテン オイワ {コレン / コラレン}。(太郎は来るけど、自分は来られない。)

「する」の可能形は「サレル」「サルル」「シキル」である。「シーエル」「シーユル」は使用しにくい、不可能「シーエン」は自然に使われる。

- ・コガン テンキジャ ツリヤ シーエン。(こんな天気では、釣りはできない。)

多段型以外で、基幹が1モーラの動詞が「エル」「ユル」「キル」に接続する場合、しばしば基幹末母音が長音化する。

#### 〈尊敬形〉

多段型ではア段形に「ス」を、一段型では基幹に、二段型ではエ段形に「ラス」を付す。「来る」は「コラス」、「する」は「サス」である。

- ・センセーノ テガンバ カカス。(先生が手紙をお書きになる。)
- ・センセーノ アサノ ニュースバ ミラス。(先生が朝のニュースをご覧になる。)
- ・モーハヨ コケ コラス。(もうすぐここにいらっしゃる。)
- ・センセーガ ヒトツデ シゴトバ サストデスカ。(先生が一人で仕事をなさるんですか。)

#### 〈継続形〉

継続形のうち、現在進行を表すためには接辞「ヨル」と「トル」の両方が用いられる。結果継続を表すためには「トル」を用いる。

多段型には基幹イ段形に「ヨル」、基幹音便形に「トル」が付く。一段型では基幹に、二段型ではエ段形に、「来る」「する」はイ段形に「ヨル」「トル」が付く。

- ・ハナコワ イマ テレビバ {ミトル / ミヨル}。(花子は今テレビを見ている。)
- ・タローワ モー サンサツモ ホンバ カイトル。(太郎はもう3冊も本を書いている。)

#### 〈希望形〉

多段型ではイ段形、一段型では基幹、二段型ではエ段形に「タカ」(共通語の「たい」)を付す。「する」は「シタカ」、「来る」は「キタカ」となる。また、意志形に「ゴタル」を後接する形もある。

- ・フデジャーノシテ エンピツデ {カキタカ / カコゴタンニヤ}。(筆じゃなくて鉛筆で書きたい/書きたいな。)
- ・イシバ {ナゲタカ / ナグルゴタルニヤ}。(石を{投げたい/投げたいな}。)
- ・マタ コケ {キタカ / キューゴタンニヤ}。(またここに{来たい/来たいな}。)
- ・ミンナデ コノシゴトバ {シタカパイ / スツゴタル}。(みんなでこの仕事を{したいよ/したい}。)

#### 〈のだ形〉

共通語の「の」(撥音化する場合は「ん」)に「ト」が該当する。

- ・マンネンヒツ モットルカ。センセーニ テ

ガンバ カクトナ。(万年筆持ってる?先生に手紙を書くんだ。)

- ・コガンシテ ナグットタイ。(こうやって投げるんだ。)
- ・ソージバ セーニャ。イマカラ ハナコン クルトヨ。(掃除をしなくちゃ。今から花子が来るのよ。)
- ・タローワ ヒトリデ コン シゴトバ {スルト/スット} パイ。ヒドカバイニャー。(太郎は一人でこの仕事をするのよ。大変だなあ。)

## 2. 形容詞・形容名詞述語・名詞述語の活用の特徴

### 【形容詞・形容名詞述語】

形容詞と形容名詞述語の活用の種類は同一であり、カ語尾をとる。ただし、形容名詞述語文は、形容詞述語文と名詞述語文の活用が混在している(前掲《形容詞・形容名詞述語・名詞述語》表内※印)。

#### 〈断定非過去形〉

断定非過去形は語幹に「カ」が接続した形で現れる。

- ・コン トマトワ アカカ。(このトマトは赤い。)
- ・ヒトリデ エーガバ ミルトワ サビシカ。(一人で映画を見るのは寂しい。)
- ・コン ヘヤワ シズカカ。(この部屋は静かだ。)

#### 〈断定過去形〉

断定過去形は語幹に「カッタ」が接続した形で現れる。

- ・キノー コータ トマトン アカカッタニャー。(昨日買ったトマトは赤かったなあ。)
- ・アン ヘヤワ シズカカッタニャー。(あの部屋は静かだったなあ。)

「シズカ {ダッタ/ジャッタ}」のように、名詞述語文でのコピュラの断定過去形が現れる話者もあり、個人間の差異がある。

#### 〈推量形〉

形容詞では、断定非過去形(語幹+カ)に「ロー」「ゴタル」「バイニャー」が接続する。

形容名詞述語では、断定非過去形の語幹に「ジャロー」「ゴタル」が接続するもの、語幹に「バイニャー」

が接続するものがある。

- ・コン トマトワ ナカモ {アッカロー/アツカゴタルナ/アツカバイニャー}。(このトマトは中も赤いだろう。)
- ・ムコーワ タイソー {シズカジャロー/シズカゴタル}。(向こうはもっと静かだろう。)
- ・ムコーワ タイソー シズカバイニャー。(向こうはもっと静かだろう。)

#### 〈連体非過去形〉

連体非過去形も、断定非過去形と同様に、語幹に「カ」が接続した形で現れる。

- ・アカカ トマトバ カウケン。(赤いトマトを買うよ。)
- ・キタナカ ジーバ カクナ。(汚い字を書くな。)
- ・シズカカ ヘヤニ オル。(静かな部屋にいる。)

#### 〈連体過去形〉

連体過去形も断定過去形と同様に、語幹に「カッタ」が接続した形で現れる。

- ・キノーマデ アカカッタトガ キョーワ クローナッテ シモートル。(昨日まで赤かったのが、今日は黒くなってしまっている。)
- ・サッキマデ シズカカッタ ヘヤン ヤカマシナッタ。(さっきまで静かだった部屋が、うるさくなった。)

#### 〈中止形〉

中止形は、語幹に「カッテ」が後続する。

- ・コン カミワ アッカッテ アン カミワシロカ。(この紙は赤くて、あの紙は白い。)
- ・コン ヘヤワ シズカカッテ アン ヘヤワウルサカ。(この部屋は静かで、あの部屋はうるさい。)

#### 〈仮定形〉

仮定形は、語幹に「{カリヤ/カレバ}」、「{ナリヤ/ナレバ}」が接続した形で現れる。

- ・ミノ {アカカリヤ/アカカレバ} トローカイ。(実が赤ければ、とうろか。)
- ・マワリガ モット シズカナリヤ ネムレルトヤガ。(まわりがもっと静かなら、眠れるのだが。)

#### 〈否定形〉



形容詞は交替語幹が否定形となる形（および副詞形）において生じ、「ナカ」が後続する。形容名詞は語幹にジャナカが後続する。

- ・アコナカ。(赤くない。)
- ・コン ヘヤワ ソガン シズカジャナカ。(この部屋はそんなに静かじゃない。)

語幹末母音が交替することによって交替語幹を形成する(表3)。

表3 母音交替

語幹末母音	交替後	例
a	o	赤い アコ(一)
i	ju	涼しい スズシュ(一)
u	u	寒い サム(一)
o	o	黒い クロ(一)

#### 〈なる形〉

形容詞は語幹交替して「ナル」が後続する。長音化することもある。形容名詞は「ニ」または「ン」が語幹に接続して現れる。

- ・ミノ アコナル。(実が赤くなる。)
- ・タチガ {ワルーナル/ワルナル}。(質が悪くなる。)
- ・ミズバ スーテ {オモーナル/オモナル}。(水を吸って、重くなる。)
- ・モースグ {シズカニ/シズカン} ナルバイ。(もうすぐ静かになるよ。)

#### 〈副詞形〉

形容詞は語幹交替して現れる。長音化することもある。形容名詞は「ニ」または「ン」が語幹に接続して現れる。

- ・カンバ アコー ソメタンナ。(髪を赤く染めたんだ。)
- ・{ハヨ/ハヨー} シゴトバ セロ。(早く仕事をしろ。)
- ・シズカニ アルク。(静かに歩く。)

#### 〈丁寧形〉

丁寧形は、断定形に「デス」を接続させる。

- ・コン トマトワ アカカデス。(このトマトは赤いです。)
- ・コノ ヘヤワ シズカカデス。(この部屋は静かです。)

#### 〈のだ形〉

のだ形は、動詞と同様に「ト」が接続する。形容名詞述語では使用しにくい。

- ・コン トマトワ ナカマデ アカカトヨ。タベテミ。(このトマトは中まで赤いのよ。食べてみて。)
- ・ココワ ヨルワ シズカカバッテン ヒルワ ニギヤカカト。(ここは、夜は静かだけど昼はにぎやかなの。)

#### 【名詞述語】

名詞述語はコピュラが文法的な機能を示す。コピュラの形式には「ジャ」と「ヤ」があるが、機能的な差異があるかは不明である。以下では「ジャ」のみ示す。

#### 〈断定非過去形〉

断定非過去形では、コピュラを取らずに「バイ」「タイ」などの終助詞を付す場合と、コピュラを用いる場合が見られる。

- ・ハナコワ ガクセーバイ/ガクセージャ。(花子は学生だ。)

#### 〈断定過去形〉

断定過去形では、コピュラが必須で、活用させる。

- ・ハナコワ ガクセージャッタニヤ。(花子は学生だった。)

#### 〈推量形〉

推量形は、コピュラを活用させる。

- ・ハナコワ マダ ガクセージャロー。(花子はまだ学生だろう。)

#### 〈連体非過去形〉

助詞「ノ」を用いる。

- ・イマモ ガクセーノ トモダチガ オル。(今も学生の友だちがいる。)

#### 〈連体過去形〉

断定過去形と同形である。

- ・キョネンマデ ガクセージャッタ トモダチガ オル。(去年まで学生だった友だちがいる。)

#### 〈中止形〉

「デ」を用いる。

- ・ハナコワ ガクセーデ タローワ センセージャ。(花子は学生で、太郎は先生だ。)

〈仮定形〉

「ナリヤ」を用いる。

- ・ハナコガ ガクセーナリヤ コン シゴトワ  
タノマレン。(花子が学生なら、この仕事は頼  
めない。)

〈否定形〉

コピュラに続けて「ナカ」を用いる。

- ・ハナコワ ガクセージャナカ。(花子は学生で  
はない。)

〈なる形〉

名詞に続けて「ニ」または「ン」を用いる。

- ・ハナコワ センモンガッコーン {ガクセー  
ニ/ガクセーン} ナル。(花子は専門学校の学  
生になる。)

〈副詞形〉

該当形は見られない。

〈丁寧形〉

形容詞・形容名詞述語と同様、「デス」を接続させることで表す。ただし、「学生です」と名詞述語文では述ベにくいようで、「デス」を接続させるために名詞述語部分を動詞述語に変える必要があるようである。また、目上の人に対して用いる終助詞「ナイ」を付すこともあり、「ナイ」の前には「ダ」「タ」「バ」などが付く。

- ・ハナコワ ガクセーバ シトルトデス。(花子  
は学生をしています。)
- ・ハナコワ ガクセーニ ナッタバナイ。(花子  
は学生になりました。)
- ・コリヤ アタラシカ ハタケタナイ。(これが  
新しい畑です。)

〈のだ形〉

名詞述語ののだ形として、共通語の「の」に該当する「ト」は現れない。

参考文献

- 愛宕八郎康隆 (1984) 「いわゆる言語島について」『方言研究年報』 27, pp. 87-104, 広島大学方言研究会.  
門屋飛央 (2018) 「長崎県佐世保市宇久町方言」方言文法研究会編『全国方言文法辞典資料集(4)活用体系(3)』 pp. 97-106, 方言文法研究会.  
島原第一尋常高等小学校編 (1932) 『島原半島方言の研究』 国書刊行会.

南浦利早編 (2018) 『島原大移住 平成 29 年度南島  
原市・西南学院大学博物館連携特別展—戦乱の終  
わりから復興へ』 pp. 39-45, 南島原市教育委員会.  
(野田智子・東出朋)